

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 2月 24日

事業所名 _____ 子どもデイサービスみらくる

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		療育や遊びに応じて構造化の工夫をしたり、各部屋に誘導している。	体幹を鍛えるために身体を動かせる広い場所があると良いが、狭くても出来ることを考え楽しませている。
	2	職員の配置数は適切である	○		配置基準を満たしているが個別対応するための必要人員は都度調整している。	療育内容を見直したり、時間帯を考えて対応する。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○	室内段差をなくすようにし、安全に過ごせるようにしている。	2階にあるため、外階段を安全に昇降できるように、見守りを徹底している。また、万が一転倒した際の衝撃緩和のためにマットを設置している。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		定期的に話し合いの場を持っている	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			Vトレーニングの導入や発達を促すおもちゃを追加提供している。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		第三者機関との連携及び契約が必要だが今のところ行っていない。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			ミーティングを毎回行い、支援向上に向けて、研修も定期的に行っている。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		保護者のニーズを踏まえ、職員で話し合いをして、支援計画を作成している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		ビジョンアセスメントを行っている。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		職員の意見を聞いて協力して取り組んでいる。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		活動目標を達成するために、課題の内容を変えて取り組んでいる	継続する取り組みによって効果が得られる活動もあるため利用者様の状況と狙いを考え意欲的に取り組めるよう考えている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		長期休暇や休日には、外出や、集団活動など平日の短時間ではできないプログラムをミーティングで決めて提供している。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		利用者様の来所時間や相性等総合的に考えている。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		事前ミーティングを毎日行って連携している。	業務日誌プラスで、利用者様の様子を記録し、周知を徹底している。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		送りの車の運転手へは、帰ってから、文書や口答で伝えて、共有している。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			日々の支援の様子を具体的に簡潔に書けるようなフォーマットを作成し、よりよい支援に繋げている。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		定期的にモニタリングを行い、全スタッフが文書で共有し、都度タイムリーな計画、支援に繋げている。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○				

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 2月 24日

事業所名 _____ 子どもデイサービスみらくる

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児発管、管理者以外の専門性の高いスタッフも参加することがある。	
	21 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		学校のお迎え時には先生と情報交換している。	
	22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○		現状では受け入れが難しい。
	23 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○			直接の連携は無いが、相談支援事業所を通して情報共有が行われている。
	24 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○			相談支援事業所と情報共有しているため、必要の無いことが多いが、要望があれば対応する。
	25 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			必要がある場合に、SST研修や発達障害者に関する研修等に参加し、情報共有している。
	26 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		休日や長期休暇に一般の公園や公共施設等に行くことはあるが、児童クラブや児童館との交流は現状では難しい
	27 (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		○		詳細が不明で不参加だが、今後機会があれば参加する。
	28 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		連絡帳や電話で、様子をお伝えしている。送迎時や必要な時には対面にてお話し、共有している	
29 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○			コロナ禍でもあったため、開催はできなかったが、必要に応じて支援を行う。	
保護者への説明責任等	30 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			
	31 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		都度対面や、電話で相談対応している。	
	32 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○			ご案内を出すのが、参加者は少ない。興味のあるテーマを検討し、来年度もご案内する予定である
	33 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情対応窓口を設置し適切に対応している。	
	34 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			
	35 個人情報に十分注意している	○		職員10か条の項目に取り入れて毎日唱和している。	

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 2月 24日

事業所名 _____ 子どもデイサービスみらくる

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	36 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	37 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		地域住民を招待する企画は、ハードルが高いが、できることはないか検討してみる。
非常時等の対応	38 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		マニュアルを定期的に配布している。	
	39 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		避難訓練を年2回実施している。	
	40 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		虐待研修を受け、問題意識をもって対応している。	
	41 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○			職員全員が、身体拘束について、研修を受講している。現在は、対象者無し。
	42 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		アレルギーは職員全員で周知し、貼り紙をして確実に実施している。	
43 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハットをミーティングで共有している。	ヒヤリハットをファイリングして、事故防止につなげる	